

### 「外町交差点周辺渋滞対策検討委員会」

#### 第2回委員会の開催

第2回委員会が平成16年1月8日（木）、彦根市民会館にて開催されました。同委員会では、渋滞への対策を実施しない場合、将来における交通状況がどのようになるのかを予測するとともに、物理的に可能な対策案を立案し、有力3案まで絞り込みました。次回第3回委員会では、今回設定した評価指標を用いて、これら有力3案の中から最適な対策案を選定する予定です。

第2回委員会の概要を以下にお知らせします。

#### 対策しない場合の将来交通状況予測

##### 将来交通量予測の考え方

計画年次を通常道路計画に用いる平成32年と想定し、この地域の現在交通量（平成14年調査）に対する伸び率を国土交通省の資料から設定しました。この伸び率を交通量調査結果に掛けて平成32年一般交通量とし、さらに彦根駅東土地区画整理事業等により新たに発生する交通を加算したものを将来交通量としました。

平成14年交通量  
調査結果

彦根駅東土地区画  
整理事業  
等による  
発生交通量

交通量の伸び率  
乗用車類：1.32  
貨物車類：1.02

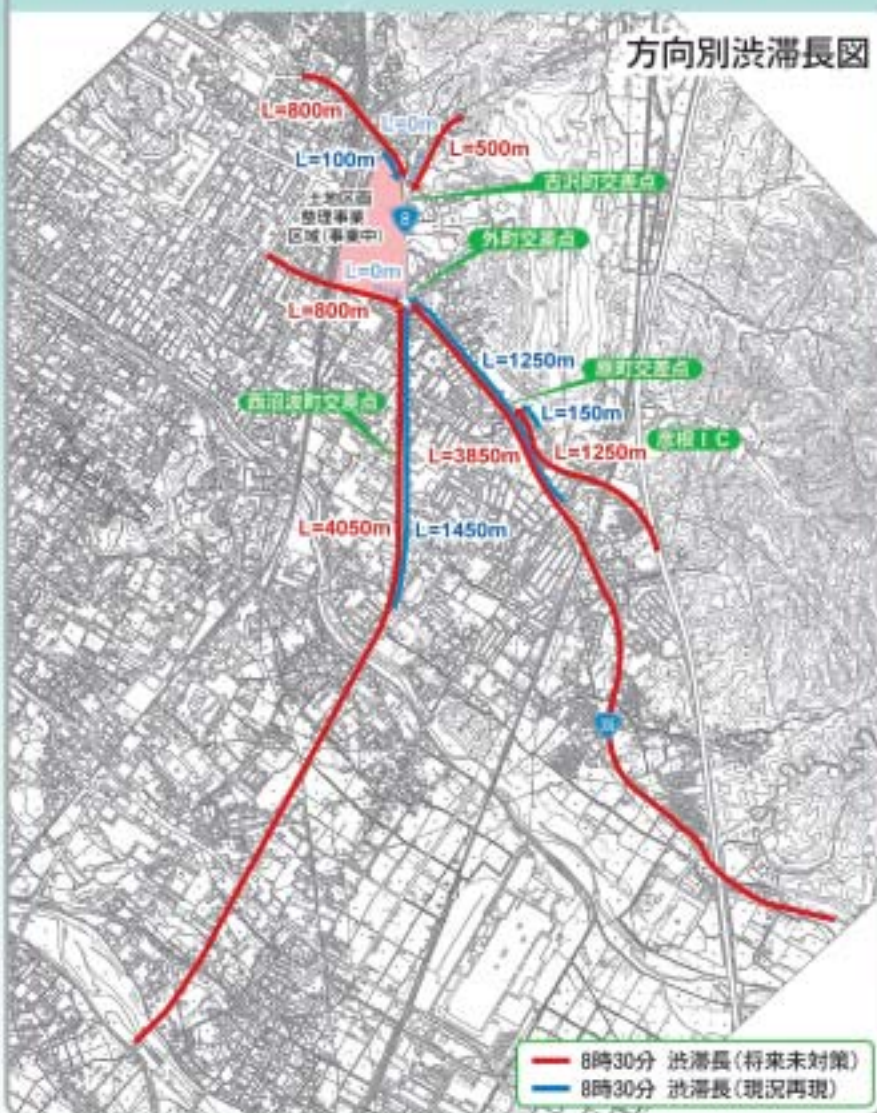
平成32年  
一般交通量

将来交通量

##### 将来未対策の渋滞状況

交通流シミュレーションモデルを用いて、朝ピーク時における渋滞状況を将来（平成32年）未対策の場合と現況再現（平成14年）において比較しました。渋滞長は国道8号南側において、現況1.5kmが将来4.1km、国道306号東側において現況1.3kmが将来3.9kmと約3倍の長さが増加すると予測されます。

方向別渋滞長図





### 対策案の立案

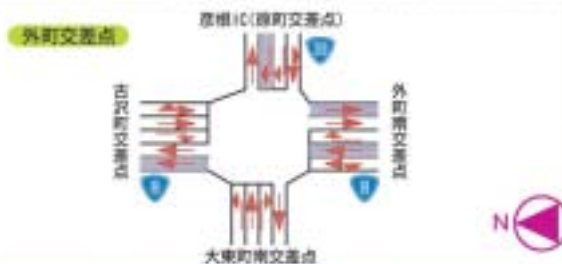
物理的に可能な対策案として、以下の3グループ計12案を作成しました。

**A グループ**  
**現道拡幅案**  
 外町交差点の現在の車線に新しい車線を追加することにより、一度の青信号で出来るだけ多くの車両を通過させ、渋滞緩和を図る案。(6案)

**B グループ**  
**立体交差案**  
 外町交差点を立体交差することにより、外町交差点を通過する交通の一部を排除し、渋滞緩和を図る案。(3案)

**C グループ**  
**バイパス案**  
 バイパス道路を設置することにより、外町交差点を通過する交通の一部を排除し、渋滞緩和を図る案。(3案)

#### A-6案



### 対策案の絞り込み

有力3案へ絞り込むため、将来交通に対する改良効果を特に重視し、周辺への影響等も考慮して、各グループから最も評価の高い案を1案ずつ選定しました。

#### B-1案



#### C-1案



### 対策案の評価指標の設定

今回選定された有力3案を第3回委員会において、①供用までの時間、②改良にかかる費用、③将来交通に対する改良効果、④周辺への影響(プラス面、マイナス面別)の点で評価します。

### 委員会での議論のまとめ

- ・セメント工場敷地周辺は更地になっていることを前提とします。
- ・有力3案としてA-6案、B-1案、C-1案を選定しました。ただし、C-1案ではトンネル延長を縮小させるなど、案の変更や類似案の検討も必要に応じて行います。
- ・評価指標の「周辺への影響」についてはプラス側(地域活性化等)とマイナス側(騒音、排気ガス等)の両面で評価すべきです。
- ・今回設定した各評価指標による評価を元に、委員会での議論により最終の総合評価を行います。